

体育館施設の今後のあり方について（案）

1 生涯スポーツ施設

現状	委員意見	委員意見の要点	考え方の整理（案）
【検討項目1】 生涯スポーツ活動における施設のあり方 ・市民に最も身近なスポーツ活動の場である学校開放体育館は、現在市内に34施設あり、施設予約率に余裕がある。 ・学校開放事業では、各施設の利用予約状況は利用調整会議を踏まえ把握している。 ・学校開放の手引きにおいて、利用の優先順位が定められており、その中で子どもたちの利用に配慮している。	●学校開放事業 ・学校開放の予約率が100%を下回っていることから、学校開放の体育館を全くを利用できなくて困っているという方はいないのでは。【第3回】 ・学校開放の存在を知らない方に、利用方法等の情報が伝わるようもっと周知が必要では。【第3回】	●学校開放事業 ・学校開放施設は充足している（87.1%） ・学校開放事業の周知	●学校開放事業 ・学校開放事業は現状の規模・量において概ね地域住民のニーズに応えられている。 ・今後、利用状況や利用形態を詳細に把握するため、予約システムやスマートロックシステムを新たに導入し、より多くの利用団体が効率的に利用できるよう、管理方法や運営方法の改善を図っていくことが必要である。 ・学校開放事業は市ホームページ等で周知しているが、一層の周知に努めていく。
【検討項目2】 誰もが楽しめるインクルーシブなスポーツ施設 ・本市で障がい者スポーツを行っている団体については、障がいを持った方のみで集まった団体となっている。	●インクルーシブなスポーツ施設 ・（学校開放は充実しているが、）障がい者及び競技スポーツについては、学校体育館では対応が難しいため、それらに対応できる施設について検討を進めるべきでは。【第3回】 ●各世代におけるスポーツ機会の確保 ・市民アンケートでは、身近なスポーツ施設を整備してほしいという声があるが、具体的に何を求めているのかが現状では分からない。【第3回】	●インクルーシブなスポーツ施設 ・障がい者及び競技スポーツに対応した施設の検討 ●各世代におけるスポーツ機会の確保 ・多様なニーズに対応 ☒	●インクルーシブな視点 ・本市においては、年齢、障がいの有無、国籍等を問わず、多様な方が集まり易く、誰もが一緒に活動ができるようインクルーシブな視点を持ち、既存施設のバリアフリー化を図ることが必要である。 ●各世代におけるスポーツ機会の確保 ・年齢、障がいの有無、国籍等を問わず、誰もが無理なく気軽にいつまでも豊かなスポーツライフを送ることができるよう、スポーツ教室や健康運動教室、イベント等を充実していくことが必要である。 - また、近年若年層を中心に関心が高まっているアーバンスポーツや、年齢・体力に関わらず誰もが楽しめるニュースポーツなど、市民が生涯にわたって多様なスポーツに親しむことができる環境を提供することが必要である。

2 競技スポーツ施設

現状	委員意見	委員意見の要点	考え方の整理（案）
○市内のすべての体育館施設の状況を見ると、昭和35年に建設された東洋通信スポーツセンター以外の施設も、昭和56年から平成9年に建設され、年数が経過していることから、今後、維持管理費や改修費等の増大が避けられない状況である。 【検討項目1】 競技スポーツにおける施設のあり方（県大会レベル） ・体育館で行う競技において、県大会レベルの大会についてはほとんどが市外で開催されている。 ・高岡市内で各種競技団体（県協会・連盟）が開催する大会は、バドミントン・卓球のみである。 ・県内の多くの市においては、メインとサブアリーナが併設された施設を保有しているが、本市にはその施設がない。 【検討項目2】 競技スポーツにおける施設のあり方（プロスポーツ誘致レベル） ・バドミントンのS／Jリーグが年1回開催されているのみである。	○10年以内に新たな体育館を建設できるのであればよいが、建設できないようであれば既存施設を活用し、サブアリーナを併設すべきではないか。場所は、竹平記念体育館がベストではないか。【第1・2回】 ●競技スポーツにおける施設のあり方（県大会レベル） ・施設のあり方を検討する際には、市としてどのような競技に重点を置くかを考えないといけないと思うが、今までどおりバドミントンと卓球とすることでよいのではないか。【第3回】 ●競技スポーツにおける施設のあり方（プロスポーツ誘致レベル） ・現在、B.LEAGUEやSV.LEAGUEには収容人数等の体育館の基準がある。競技スポーツを呼び込みたいのであればそのことを踏まえた上で検討していかなければならないのではないか。【第2回】 ・基本理念にある「みる」スポーツを推進していくうえで、子ども達に夢を持ってもらうためにも、プロスポーツの試合を開催できる施設は必要。そのための5,000人規模のアリーナは必要。【第3回】 ・いきなり5,000人規模の体育館の議論するのは飛躍し過ぎである。現状の足元を見た議論をすべきではないか。【第3回】	・10年以内に新しい体育館の建設 ・10年以内に建設が難しいのであれば、既存施設（竹平記念体育館）を活用し、サブアリーナを併設 ・当面の大会開催は、バドミントンと卓球の2種目を重点種目とする ・プロスポーツが開催できる規模の施設の検討 ・現状を踏まえた議論	●計画的な施設の整備 ・市民が生涯にわたってスポーツに親しむことができる場を提供し続けることができるよう、既存施設の適正な維持・管理・修繕を行うとともに、施設の計画的な更新に努めていく必要がある。 ・東洋通信スポーツセンターの中長期的な利用が見込めないことを踏まえ、早い段階での東洋通信スポーツセンターの代替施設の検討が必要である。 ・「高岡市スポーツ推進プラン」の各々の施策を行っていく上で、新しい体育館の建設は必要である。プロスポーツからアマチュアスポーツの大会の開催や一般利用まで幅広い活用が想定されるため、施設の規模や機能を検討していく際には、利用者である市民ニーズを把握し、どのような利活用が想定されるのかを適切に捉え、計画を策定することが必要である。 ・現状では、竹平記念体育館やUホールの中長期的な利用が可能であり、これらを最大限に利活用することを前提とすれば、メインとサブアリーナを備えた新たな体育館を早急に建設する必要性は低い状況である。 ・以上のことを踏まえ、新たな体育館の建設までの段階的な対応として、既存施設を活用し、竹平記念体育館にサブアリーナを併設することが考えられる。 資料NO.2参照

竹平記念体育館拡張の可能性について

1 竹平記念体育館について

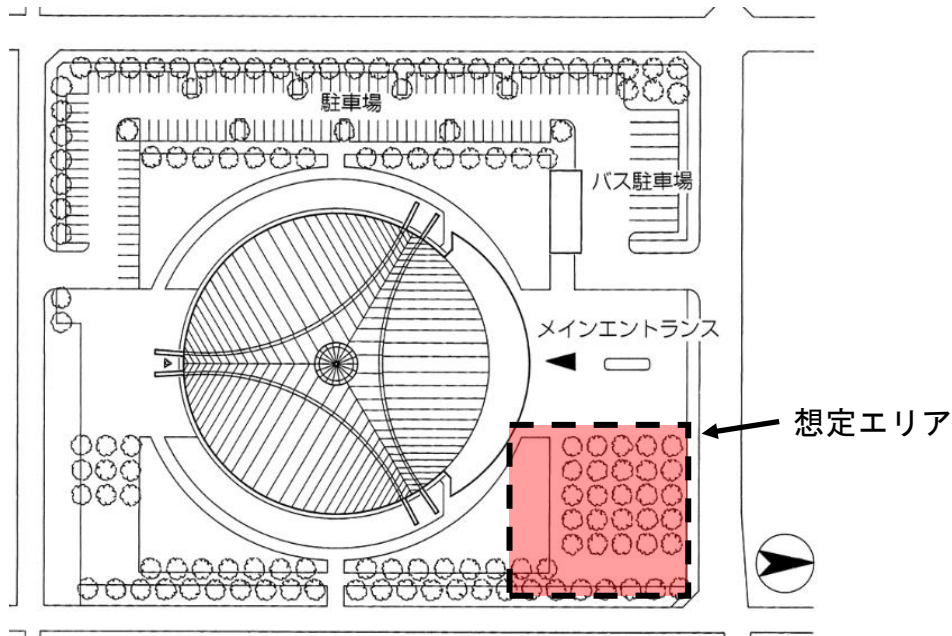
- ・建物延床面積 … 6,092 m²
- ・アリーナ面積 … 1,900 m² 【バスケットボール2面、バレーボール3面、バドミントン12面、ハンドボール1面】
- ・観客席 … 2,000 席
- ・施設内容 … トレーニング室、多目的室、会議室、更衣室、シャワー室
医務室、応接室

2 既存施設を活用した機能拡張について

(1) 基本的な視点

下記の条件を想定し、建設に適した場所を検討。

- ① 2つのアリーナをつなぎ、利用の幅を広げる。
⇒大会の開催・運営を効率的に行えるよう、既存アリーナと一体的に利用できるよう配置
- ② 既存駐車場を確保
⇒既存の施設内で駐車できる台数は146台であり、最低限、現状の台数を維持する
- ③ 必要な施設規模を確保



(2) 想定される施設規模

- ・アリーナ面積 … 1,300~1,500 m²を想定
《バスケットボール2面、バドミントン6面、バレーボール2面》
- ・観客席 … 200 席程度を想定
- ・便益設備（トイレ、シャワー室、会議室等）